

※※ 一岩手県立博物館テーマ展『比爪—もう一つの平泉—』パンフレット17頁—

### 3 比爪—奥州藤原氏第二の拠点— ③ 外縁遺跡

#### 《蓮華庵寺(紫波町赤沢字向井他)(1)》

現在、紫波町遠山の正音寺に安置されている平安時代後半の毘沙門天立像と五大明王（不動明王を欠く）は、元来、赤沢地区の「蓮華寺」の仏像であったと伝えられています。

紫波町史の記述では、「蓮華寺」は赤沢川南岸の「向井」がその旧地とされています。この地点には仏堂のものと思われる礎石があり、阿弥陀堂跡と伝えられています。周囲には無紀年銘の板碑（中世の石製供養碑）が立っており、中世以前の寺院であった可能性を高めています。

狭義の「蓮華寺跡」はこの阿弥陀堂跡付近を指しているようですが、周囲の状況から考えると、平安時代後半の寺域は、ここに限定すべきではありません。阿弥陀堂跡北約 300 mの薬師堂に安置されている七仏薬師如来立像も12世紀の仏像であり、またその北側の丘陵頂部に鎮座する白山神社も、神仏分離以前は、寺院の鎮守社であったと推測され、赤沢川の北岸にも、平安時代の寺域が広がると理解すべきです。

## 《《《 2月～3月行事予定のお知らせ 》》》

2月20日 (水曜日)	第99回月例発表会	午後7時から午後9時まで 発表者：宮 良 男 テーマ：日本の仏教 4 発表者：石 幡 信 テーマ：紫波郡の城館 4
3月20日 (水曜日)	第100回月例発表会	午後7時から午後9時まで テーマ：皆で語る！ 月例会の思い出とこれから！！ ※ 100回の節目を迎え、これまでを顧みて、今後のあり方を、懇ろに話し合います。

### ◉◉◉◉◉◉◉◉◉ 設立10周年記念行事 ◉◉◉◉◉◉◉◉◉

☆ 石川県羽咋市の槌爪憲三様から、昨年末にパンフレットを添えて故郷である穴水町の案内と、お便りを寄せていただきました。感謝の意を込めて、皆さんに紹介します。

「ひづめだて」を毎回、興味深く拝見しております。紫波と云う町名も美しく、旅情をさそわれます。

明年、7月には訪ねてみたいと思う気持ちになりつつあり、日程に入りたいと思っておりますが…（鬼に聞いてみます…）。貴懇話会の益々のご発展を祈っております。

☞☞☞ 鬼さんが、笑って「行っていいよ。」と言ってくれば嬉しいですね。

☆ 第2回企画調整班スタッフ会議

日時：平成31年2月7日(木) 午後3時から 赤石公民館会議室

協議事項：① 記念行事実施要項 ② 来賓案内リスト ③ その他

☆ 第2回準備委員会幹事会

日時：平成31年2月21日(木) 午後3時から 赤石公民館会議室

協議事項：① 記念事業準備業務の進捗状況 ② 各係各班のスタッフの確認 ③ その他

【城内遺跡—昭和59年度発掘調査報告—】(1) <昭和60年3月 紫波町教育委員会>

I 調査に至る経過

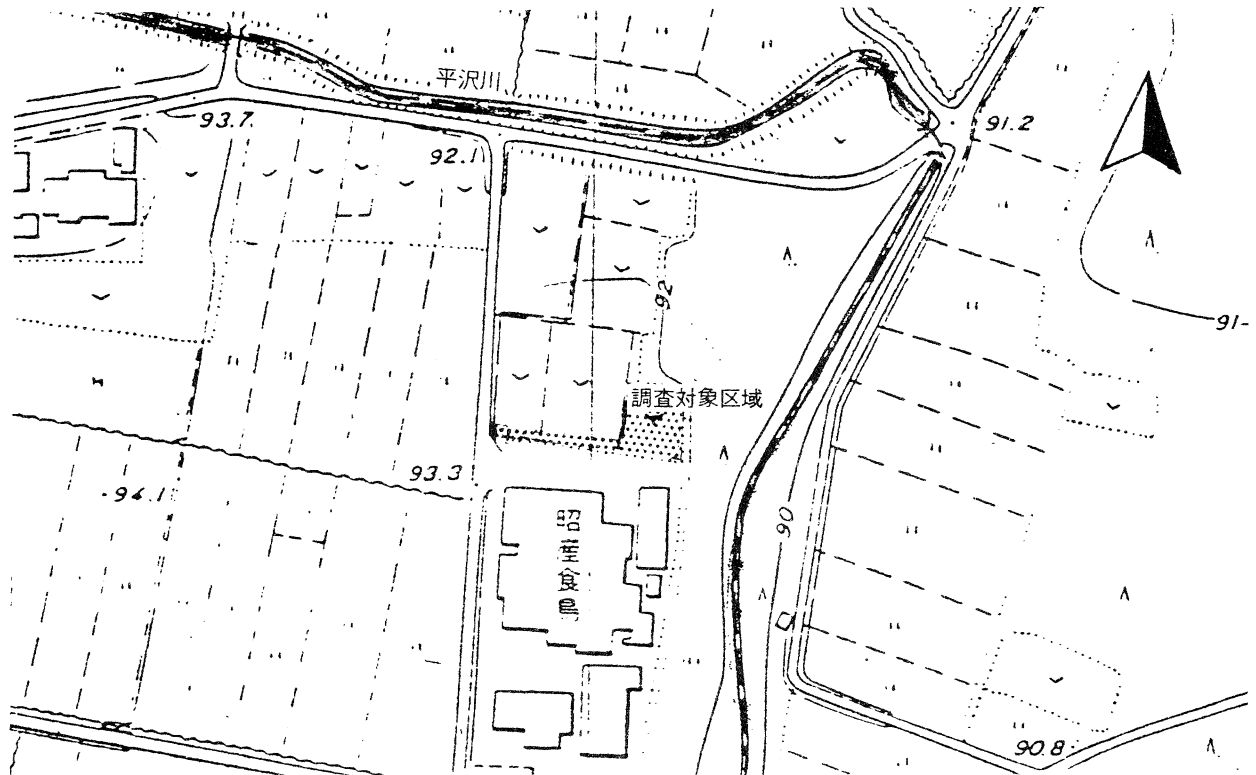
岩手県紫波郡紫波町北日詰字城内地内に所在する城内遺跡は、以前から矢じりや土器のかけらの拾える所として付近の人たちに知られていた。

実際、近所には、当遺跡から採集した石鏃をはじめとする石器類などを所有している人達が多くいるにもかかわらず、当遺跡の実態はあまり知られていなかった。

この度、当遺跡の範囲内に工場の拡張が計画された。町の企画課より連絡を受けた町教育委員会は、早速、工場建設側の責任者と企画課をまじえ協議を行い(4月、5月)、とりあえず工場建設予定地内にトレンチを入れ、遺跡の性格、遺物の出土状況などを調べる目的の試掘調査を実施した(6月)。

その結果、多量の縄文時代晩期の遺物を検出した。しかも調査対象となる工場建設予定地内でも、東側は緩斜面、南側は遺物を包含する黒褐色土層が傾斜しており、厚い盛土層が確認され、遺物は、おもに北川地域一帯から集中的に出土した。なお、遺物包含層自体は、南側へ傾斜していくが相当数の遺物が包含されている可能性があった。

以上の試掘調査をもとに再度協議を重ねた結果、緊急発掘調査を実施することとなった。ただし、調査期間、費用などの制約から、調査は、工場建設のため破壊をまぬがれない北側地域約350㎡について実施し、他の部分は、現状より更に盛土し駐車場などとして利用し、掘削はしないこととした。



♡ ◆ ♣ ◆ ♡ ◆ ♣ ◆ 樋爪氏の歴史が変わるかも? ♡ ◆ ♣ ◆ ♡ ◆ ♣ ◆ ♡ ◆ ♣ ◆ ♡ ◆ ♣ ◆

これまで清綱の樋爪来住は1120年代と推定されて来ました。でも、もしかして、清衡が平泉に移った1100年頃と同じ時期に遡ることが考えられます。またまた、勝手な仮説と皆さんから叱られそうですが、全く根拠が無い訳ではありません。

今、大銀Ⅱ遺跡や城内Ⅰ遺跡で出土した遺物の精査が行われていると思いますが、その中に編年上1100年に区分される土器が混じっているかも知れないからです。

そうすると「平泉と並立して開かれた樋爪!」と、歴史が塗り替えられることになります。発掘調査報告の発表を期待して待ちましょう。(文責：高橋敬明)